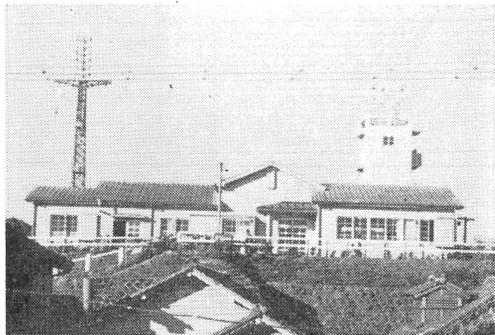


地方だより

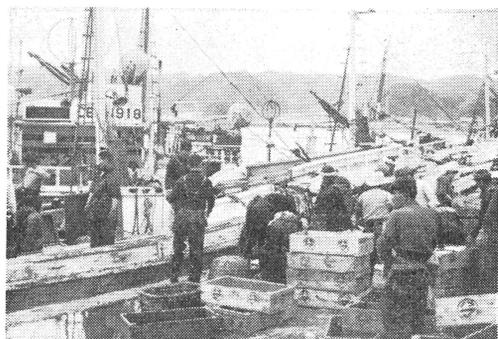


勝浦測候所

房総半島の南部に位置し、太平洋に臨む勝浦は冬暖かくお正月頃にはすでに菜の花がちらほらとほころびはじめます。真冬でも気温は5℃以下に下ることはありません。他方真夏には30℃を越す日はほとんどありません。このようなわけで勝浦は東京から気動車で僅か2時間の距離にありながら、避寒によし、避暑によしのパラダイスの感があります。

古くから、「江戸が見たけりゃ勝浦に御座れ」と謡われ、近隣はもちろん、このあたりには稀な繁華街として、栄えた時代もあり、現在なお続いている朝市は、300有余年の伝統をもつものとして有名です。しかし、現在の勝浦の主要な産業は何といっても水産業で、毎日が海とともに明け海とともに暮れるといっても過言ではありません。

勝浦湾は九十九里浜の南端から18湊の位置にあり、銚子館山間95湊のほぼ中央に位しています。勝浦湾を中心に南北18カ所の漁業協同組合が、各々の港を根拠地として、四季を通してこの地方の漁法である一本釣を主力として、その他良なわ漁業、あみ漁業も活躍しておりま



水揚げ風景



勝浦燈台

す。

昭和34年1月に千葉県知事と銚子地方台長との間に、千葉県漁業無線気象通報に関する協定が成立し、これに伴って当所は勝浦沖の北緯36°、34°、東経140°、142°の線に囲まれた海域の漁業気象通報を担当しています。次いで昭和36年6月に前記18カ所の漁業協同組合を対象として千葉県中部漁業気象連絡会が創設され、当所の防災気象業務の一環一助として運営されております。また一方若千葉丸、千潮丸は勝浦海岸局の所属船として、海上気象の通報を当所宛に送って来ており、その数は両船とも最近5年間に700回前後に達しています。この資料は当所より本庁予報部へ通報されているのですが、このような漁業気象を中心とする活動が当所の特徴といえるでしょう。

(富山三郎 記)



勝浦漁港(丘の下に測風塔が見える)